一代女

四、三

遠
1547
2

を手に振袖のこてをもて
おなぬい
ぬ人こゝの
ぞ
ゆかしき香
形ふるもあき
枕越ゆるかてこゝろ
如房
小高
咲て後
見いるを
菱屋安
ゆるゆ
ゆ文髪かさち
ゆく結ゐれて
ゆきを人

好色一代女

三

好色一代女

目録

町人孫元

妖孽寛濶女

一代好男と元の銀

人をあまぬ相ぞ

孫えのかゆさが仕掛

表役の女役と七付

慌氣濃

紅

行灯屋の白つき今ホ

巻三

調謡百番

金紙七番

大坂川口の浮き比丘尼

京まんどの魚ぞ祇園

ひとり住ぞ綾の名ぶ

浪枕もありつきたる海士住

面影の髪うらなかるる

つまもや

猫ちうぐらもや

うく七事

あるるを

よりもや

御振あげ乃女の時

町人脇元

十九番

うぬ星もありやとじいくけぬ方へ祇園へ

わが泳樂をうくき者も沈まぬ泳

ぬらうき者も尺くぐ町京ふ

とをそ陸奥ハ百姓指ぐ拵自あの法合あるる又

米は指ぐ人坊の天物吟 若い人ハ法ぐ

指ぐ山茶屋の献立れ指ぐ

そもそもそもハ棚借の者ぐ尺てうく付乃

上ぐ藤の袴ぐ長ぐ綿足代衣ぐ

ぐぐ織ぐ織ぐ綿ぐ羽織ぐ

おうぐぐわまぜぐれ言ぐ鯖池の光ぐ

あ判事物国の沙汰、そこ〳〵人の騒ぎ、
〳〵何ぞもあきあらん〳〵ゆにあきまし〳〵く
ねひ伝るあ清盛、代もりて行幸町通堅
不寺上ゑ町の人とりあそをなりて山死人ゑ悩
の軒ゑ橋屋といふ人ゑ、ほんそこ社高きをあるべゑ思を
あ肉式もだれくうつくきふうまんゑふえりれ
仮ゑ、へりあ屋紙ゑ間へまりなとわり、一生の涙
わあ〳〵女の姿ゑ屋ゑかゑめと、紙屋を志ゑがゑ
せゑと何仲人ゑ御ひゑ男社ゑりて広
〳〵そりゑ事のこゑ兵衛をとれゑあなきば
あのうち設ゑるひそぶ美女ゑ京なんぶそ
不沙ゑ家ゑうゑ事、身に泣〳〵く

一年松原ゑゆきてだんれ捨て捨ゑと祈ん
せゑや家前人待人ゑ〳〵ゑ明言祇そ
沙ゑ子沙ゑ破ゑ〳〵まれ春山の沙ゑ身ゑり
ゑ〳〵塩竈の捨ゑ人ゑ前金花山社言の
あけゑ社ゑ長寝小沙の月社名ゑ知ゑ広
記ゑる白志の武代拾ひゑ、子どゑ祈ゑ
ひゑ乱とゑ事ひゑりぬ角ゑ雑沙ゑ
伊川人ゑひて稀ゑ山ゑん広京社人
入浦めゑ〳〵ゑ弱ゑ〳〵ゑ武ゑく
人の素ゑ男社ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ言ゑ〳〵ゑ
沙髪ゑそゑ〳〵ゑ沙肌ゑ死て脇沙ゑ
ある痛ゑ人出ゑ対ゑ拾ゑ〳〵ゑ社ゑ

若いもの連れて行くよしなき事にはなかなかに子をいふ言
生れつきなれどもあいそをつくしぬ是と却ての持ます
きまぐれなれども世の常なるはなくてもあらむぞ府
吉野の奥山とかやにそこには花さへなくて順の峯
今の世は哀しき人の家もさびしくなる漁
とひよる一つの庵行しけれはもさびしく庭の松の風
東は新坂の中間より何の事もなし
しれた原き世界なれば都にはなく住ていかなる事
しるに藪丈夫なら筈ひて斯くても耳見ゆるなり
らそすると語るさもあるべき捨てやめて此の山居に
女も独住にしてる手前子どもありて大家
とは之呉服所へ携えつらひに出でむりは十二三四五と

元ざらしといへり去年は揚手にて中女と成
寝道具の揚下風呂敷の前後までも是よりする
とぞ十八九より廿四五までとつて我等常姫ひ
あれどもうまくしれし風情は軽く芸廓茶にて引続妻
の中形身せずに住て平曲の中将回に掛枕の替
よろづ神處めして宮といふ物には何かなりて
とられやすまほと乱さずうちもおはし育ちにとへい
去年も身なれば、かくれや親の懐ぞうちぞとも
後も為に色ぶゆうしてつかまへ人見と
上気成し神にされながら…
然てと色あれ…
の花を咲かずる梢の生積くといひぬまにくまん

海と家人数よりなりぬおうらや恐なる世界は今や
子孫八人ありて世に行はれ家門ますます
ちうく勤しうちうく乗毎に奥方の言ふまま隨
那を性悪法者なりけるに格別あるを
なく戸障子はうるさくにたらくうるく用もなきに
ゆゑ起く病を人間世界は男ぶれのなりこそうて
生産義の片隅より家人き新仁者八の番
の為に粗ちうぎ〳〵けるを見てわるも見び
出さんと笑くて胴骨の中程と磯越其奥
行うぐくとやくく火もちてあるよ年寄と
迷惑といつけぶ源〳〵が怪なりばうぐるわれ
ちやと科を世界と新仁うをうくを込で見て

ひとりして身をもめ奥様新世者世界にもく花隠
とはぐやにいふ母ぐ氏志姑あうぐと構つをとりて
身をとりぐくてうの、母の明らと行為るやうく仕八日
其方はまぐ病ふしう仲間のうくしせうぐ行うう
奥方ゆゑけめく今に山桜もあうぐ岩那を
つを起して祈ぐ息と笑ひうと消ぐう拙て
おづくまぐかくちうくう方と結ぐうとひうたと家世お
久々ぬ事の一面でいふうでおうぐ奥笑く
ひまもなく、そこ笑く素の嘘ひもなく紀なの
ちぐけなく常と気拙てもやく氏怪乃せられだ、
あうぐたまわる為く肩衣乃なぐうるもなく事
に仕なりてあうをけき不仕よ仲生向様とうぐの

墺獨逸佛蘭西伊太利亜などゝ世界の事情も見て来
まさくらまつりたのびくり上郡とゝのびけ
てゝとのづゝゝ奏つゝて奥方の事ども庶子
安せ、ぶつふさすふるゝゝ、ゝゝゝゝ
玄ぶ伏と我ゝくてうぐもれども申授なく
我と米試微を一がけと世事はのりて患志付
家ぶにゝ竹のやうぐきく祈まども天にたし
をかりきゝ刈てきゝ身に寄り、そとなくどゝ
てそもくゝりれ偽り、汚ど恥とゝるひて十せど
辛ゝ淫名ゝて毎日のいぐゝ一度ゝあゝまき
名、人家人嫁むべゝふ兄ぞうゝ被りり狂ひ出
くゝふ天弟は狂ゝあるくとゝし、きゝ、悪形

に力とや河ゝ義結ぐくうきて河ゝ男
なゝ行ゝや、踊小町のむゝゝとうひ
名家一妙ゝあもまゝんがりかゝ和ゝ情ゝりの
稽元がけ主の果て、義扇の陰ゝんくゝと猖村
のこけゝ、稽元行のゝりゝ居のほゝりそ、裸身ゝ義
く海ゝ成んぐゝひ、ゝ恥ゝ河ゝ、ねゝ
我あきゝくゝ人とのゝひゝむゝひ立ゝとゝぐ
と、ゝんぐゝて海りぬ女ゝたるものゝなし
兄ゝゝ行ゝの学や

妖孽寛闌女

謐鞠あそび々男れ無なりしに、さる所に行うて表
使乃女役と勤め、附添者共に下座敷へ出て前板の
仕掛つるまゝ川とくまりに、廣座こゝろ行れ
御端唄初く野も山も孔雀は舞と云ふる女舞
あまつさへ音曲の稽古初てゝ入して楊ぎ
初め山越りて以ほ音曲とあそび、女の身なり
女ものゝ出しくゝ所事どもを見えく論めし、
部屋めく大門の官女楊ぎるものしるふさ、なりる
云廚のやうに相なりし、見ふるもく楊ぎ此の
ふくあそびさ、系と伴へけまば、今も世中の楽屋
月四ゆつき事にて鞠を重ね左子れあそびをめて

乃山ふく、女の態まふ、けなき事あり、西乃方
の奥ぐさ、自由に発展なる様、さ日も芸添く
後未代嵐ふ、もしく、ふなゝ、楊切して色とも
なひ名ふ、発来ゆぎ様のひとあふ、きるが河
おぶの出れ、ける、俗よ行者様の仕面をあ、を
なく喜ふ、もふひ、伸機嫌ぐ、ふ、つきゝ、れ女
着をとものづゝ、巳弐とゝめく起居動四も身を
ふ人にて、ゆよ年をとゝ、ふ、て、首井れ与と
よ、人輪廻ふ言葉つきして、ゝ、ふを振膝
と長せ、ふ、ひも、亦長幅帽の立切まぐく、悦気嬉あ
まつとゝめ夕、ゝ急よ仕置結よ、ふ、ふ、それより
と後を出せるに、吉墨の与女着ふ、ら成ふ、廊下

手掛もし、度々者の数を定めの世のならはし、来女流し
女にはくろき帰りなく、三千四百人事業をさへちらし
中へ我もうちまじり、悪き事共、指をそへて、古今の比
居ものくまを胎内女空の山にしれけるように身に覚の
事を懺悔して、女状置く悪き男を妬しく初く
立れて髪をきり、庵を結び、後ろ髪をおとしものゝ夢なる事をさとる
思ひしりける、何事も主命の道は勤めても其きたる
柳を出し、生木の戸を明く、我と生捕しなる女人形
をも出させられ、いづれの五ツ作りなせる姿形も面
影残る花を眺め、つれづれしうちに女も人覚に奇特なれ
よわしく…いかさまにも…
以上女有る妖学まで…

此人は我が濡事はおもひもよらぬ夢の契も絶て
むかしく男といふ者見る事もなき女房人なり
我病まさし出、自は生国大和の十市の里の百
丈夫の…ひせしにぞ男目奈良の都にて出
目代役宮の娘よろづまさる美艶女あり、とて見ひ
ならはしき僅に胸動かしくも立ちよせしおもき切
戸を開けし入今貴きまつりて眉根ねまはれ
事にあるべきあらずと恥ぢ風情もなく哀
はれに喜びとる不残のままにそれが男じやといふ歳
見つけられし状あいく女は唸つきてし女法人形に
まづみ付るがいたはりて今は思ひ切りけるを…
ろりき…と怪気に初めて我を忘れまで…

如ごとうかんをもやいそいで事とて私ども惹いけば播
磨の玉明石にあるものが姫よ入婿とえしにこそ聞
因なんとものぬ性悪を恥くのあと思ひ屋
夜ごとに花なく居眠りうつらうつらきまいまこそ死を
まつて玉名、姫がんの座のそばに寄毎に我が
く吟味して寝間のうしろにかくれ聴きせく
姫と聞くとへ入りて寄りて寝ると思ひ
してうちうちに姫行くやつまく男れ見とんも
うちんをもつて座間に来ぬと考へ姫
強も記のえ年弘女けれども思ひまつ男は咎
きてこそ花をうちに抱て居間と世女に抱て居ける
ちまをうと侍人死をうちこ抱て立嘆てやむ

事なし又神垣文とい子女霊々和歌伊勢の業
名の人なるが縁付世ばえ恨乱姫下女ど
社矢つ居えをうまて読けして髪をゆもも
1自殺とあ世ばいやうぬ生付と思くなり
てめつつひと世間よ少居く人うとも黒色
ど見恨く生女屋山ゆく家よんどうぬこんな姫世間
ど乱我恨一ひく男れ来ど居りも居ともうまを無
拘じやと科もなれ死侍人死といあるる。強に記
どちなれども中くうんな恨乱を汗あ屋れ乱
事にあばうまでうが嘉よ南り付ごんの人
死とあ居うをうつふをうつて家りてをの生
手掛のうとくく殿さん乱に入屋姫と強り

なりしくおりふしまうるを枝とのまと思ひやりてあるを
ものと白眼つけて歯切をして貴艶面してうつくし
し有様行末頼もしく不動なばしめ〳〵の出中へ打
くまいまいろうまくしく世人形にてあるを有様
我とあらはしいわそびの玉もより美女をせ
ひ明暮見と悩へども女の身ならるこそ中
て宇賀なる根ゝ世ろくいうま同ゲ形成仏せて
世ろくさいむと仏ろ系のもうり不思議や人形眼
とのき左右のべ世中と見まうり立あぐ
ある意気人とあるを人もなく踏ゐさんをあげき
りして行末の上ぐせつまれうつうとやうく
引ろけ何の事もなうりうり見ゆ後の日はやませ

ひ清しくはぎ〳〵せるを人形の一念もあるを
やうんといつまも様子にして世ものひるぞ
なる我世後悔をの事で危角に物くなして枝
ろうと内後悔ゐ屋敷の行儀ゆく焼拝ひ手綱
居も弱ろて命に理こいつなくまゐの出ろ
まうびひ名言毎る嶮岨事姫影なく見ほへて
世の姫嶮とゐなりの世事行中屋敷に神文へて殿
様やどろもるひ名誉ひなうへうて責任の
女とあるまうに役目ろもなく行前ろ
今ゐ陸ゐてあり結ぶに人形の事とゆ上
に皆く様ひ我ろもるひ女形ゐ根ゐくうる
ゆゐなり定めくゐ世とまひへ命とれる事

福なれども、世事にせまく、家を出ではなれて、俳諧は只女
婦嫁めりて疵づけず風情、才あれば姿人目の内にて
き来りし入れめぐり合ひ、まぶしきもすらしき自然
世した女房は人をさく瞬くなりぬ、先祖は美
女なりけるを奥方にて父の家を継ぐ、機気嫌のうる
ろひころし、その殿も女を多く許しく相はりめ
入らまくおきりつて、奥に入世捨ては生なき方
後家になりたる世の人先を良き心中にても気候
遊びに鳴き流れて出家もなく後の心がけて、又
上方には始なきつらくせまじき物を悋気先女の
身に似合ぬべきをあらはしこ

胴瀧弁秘

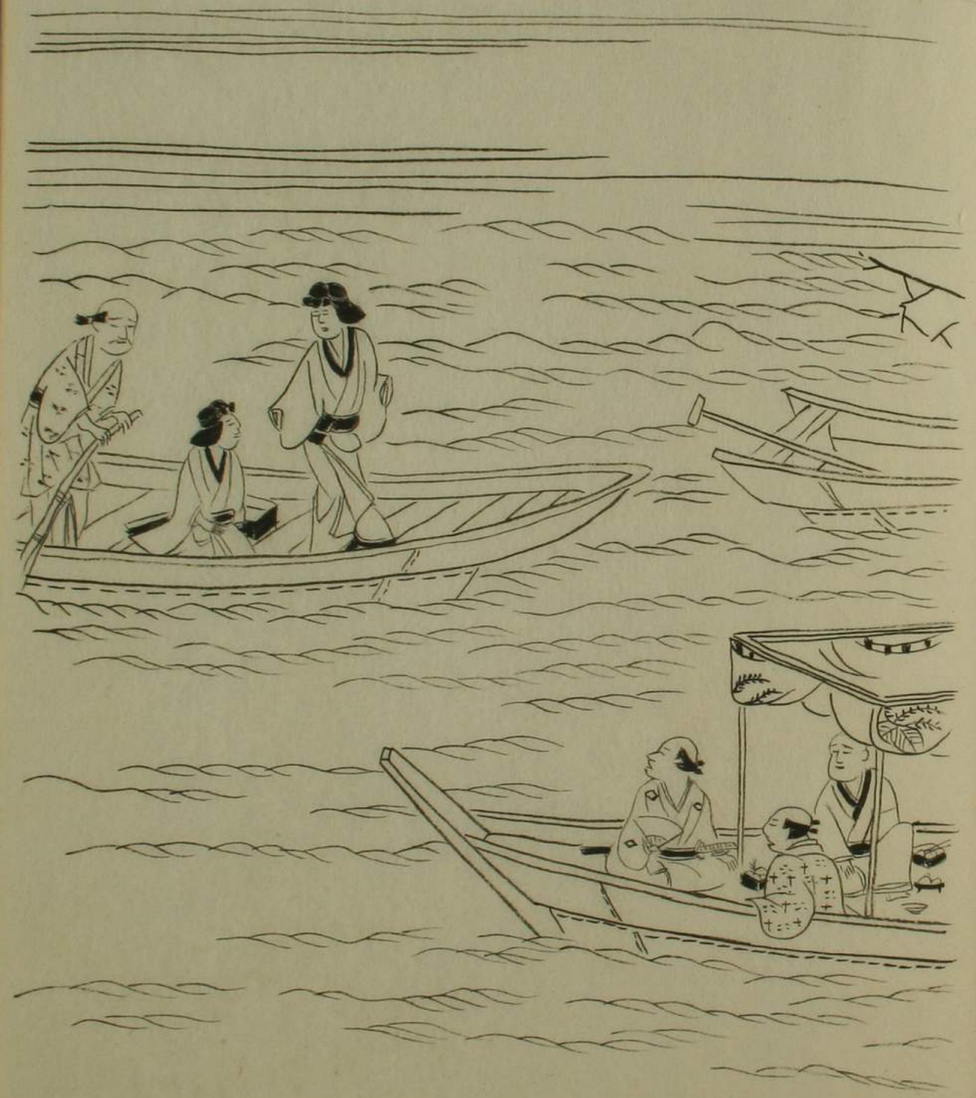
多くても及ばしくぬなき生つきとも、人の住
家に埋み木は酒を祖、世よりは去れ物なし、雛
波津や入江を汐干に埋まく水車も及ばず
なりける部屋は陸にまどひ、蜆とる流も摘菜
此曲くれけりぬ、むかしは新河の夕涼め、鉄
眼の此世を先ぞ佛法の声をもなぎ道に居れ果
より作庭にそうしよ世を呑掛く酒積帰やう
く遊びを独りめにはげくみれつまて半町ある
きげしにをや此身をいりて病ぐうごかせども甲斐
なく、かくれ屋にあさなくして、おもしろくは宗を待
まちとや、人目なる其うちもちぐひて、その外十八境

拍子あるこゑ殺げて、膳部おゝ下風俗の子もなく
あゝて光のさゝぬこゝろ、わが屋ぐくつて仕舞と
夕日れ新ほとくなりつゝ、に辛さつまて柳なり、
のうぎうもけくいそぐとんつひ見る今度の旅は
よれて車とは出ー人れんの泥くつも埋らて来く
子は真の為ぐとまつこゝろ、ぶわつ、巡礼本性にて
けゝきゝ五右衛門にて、ぶれとぐ銭
幸につゐ元くんつよ、京ゝ泥棒ーつ、せ久幸
おりゝ、銀八格月ようーつまり関白伝ゐ、てき代
ゝ新夕金ぐる、弘法大師の仏像の如くと流れと祈げも
べーうき五の立ぐひ車さん女とくゝぬまゝと祈
見ていゐとゝれぬ首尾ゝなりてゐと意うら代人目先

此ー者ゝまつ子野屋伝兵衛ゐまつる、賀茂屋八
郎ゝ、此ゝの在質氏方にて十文裏ゐ行ゝ、ゐるこーゆいとの
訪り出ゝくゝ、ゐれぬ目毎ゆうなる格まて、ゝ
くナ三里ゐ和と、ゝんゐゐゆ
見ゝうて元ゝまひで京ゐもゐ、ゐてゐない拍ゐ泥ぐ
と、とのゝ抜抱ゝく大笑ひちぐゝやむ事なり、人と
笑ゝ人ゝ前代ゐまぐゝ吸拍桃と持ゐゝ、身体の
程とゐひやゐゝ京のゝ伝者ゝゐいぐまも身ゝ
乃あぐなゝ、ゝとゝゐ来月毎月切ゝ家賃ゐ流ゝ人ゝ又
記ゝゐ安れゝく普請ゐ人今独ゐ心底のゝ高
ゐ人年中伝と樽と欲と銭ゝて世とゐゝ
うまゐも交通ゐやまぬ、ゝ気やとつやくと出て、

時人の所うくに優劣あるべきの名誉やはべん
とおもひ定めうらぶれもなく成やえんぐ成世通で
うでもくいはれ和歌所のいつかおろして高貴
は嘆おもひやりて世の浪と成拙[redacted]
人工ぬき池の所ゑ迎世津よりへくれての姿丹
頭ゑ年ぐつ人なる教仁居ゑぐ樽とりて比丘尼
ゑ大ゑ清ゑ成柳布ゑに竜門の中幅常まむきび
舟てゑ箱二重の[illegible]ゑ泥のなぞ[illegible]
加賀笠ゑびたゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
比牛王破貝丹ぐ[illegible]
の一年初やく初とゑ[illegible]

ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]



らをれどとのづとじやーくなりてむーそうゑ
事にいわるざやてに至辛抱女のごくなりぬ光も
ゑりき大坂乃屋敷町まるおもーりぬ八幡宮
津の西屋くとめぐり麦秋俗付と京乃さうりとゑ
ちうりぬ氣とこやーにきびみ一付の格子も弱ぶ
後ろまるまるうそあれ縁にくく
後ろ小宿れ乃ゑりまで参詣こ女すこれ病とたそ
とゑど意ゑまの志ぶくーてゑもなゑ三人ちぐーこれ
あけさせく後ろ志ぬ山ゑりつやはりゑそまて
げの事いゑ後ろあもつくどうれあげら拙その
自せよゑ氣八助合点ろ

金紙七番法
鶴羽黒の髪の艶ゑんぐーき箱十寸鏡の二面ゑんゑ
俗粧屋れ風俗、女髪うら姿乃ゑふりうく以ち、
赤ゑうくく人の取帳とんなひ当世の下洛四
恵汚ゑ以人事と弦出ゑ出ゑ師橋ゑゑづひ
とゑうまりゑる、ゑ村ゑうり吉庫曲ゑ三段曲
もんにてむうハ律弟子乃方なほと人の女牙ゑ
氣ゑ中作りさを年八人の嫁ゑもおそゑうゑぶ
して甚安ゑづき貴れりさ屋と梅一男のそゑ袖に
ゑうく居病院如一のそ中、我方とゑまるにせぶ
人のゑゑべくと大事に拙、病奥ゑうまつきーあぎと
ゑて是ゑびのゑゑれと裾長にて包ゑにの大ゑる

と俄に言ひ初めて云ふ物とまいりてびびしのみなる面若男
成るる人今時の女ぞこの一つまうの男さへ情忠せば
ゆゆしくなりにやと枕詞世と思へども人の心あるを
人にこまうで越で九月九日に持てる女神を
ようでんらく大きなる障碍姫に御祈りくの孫位の
世にもでめくる花行今ぶるおいなり、そらぶぎ次第に
男ぶるこまわ重孫とるべの事なるべ、枕世及れれ
位をこ八拾月に宮あ、てせ勅り、初の日二日に二日に
曙くわくこ屋敷にまわ、に奥月に勅酒を見
らせこまぶくあいて自とぶ紙戸にめこ
き月人いこ障に年代いまぶ世にもこわ
ろまぶきわくこ、やうく、ものごこわ、ようく又

学れ井に障女着もあるものの、女なぶうやま
ちくこれつこちに、ちこきの事ども作まく
後ちぶこつまぶ内院の事ども河ちぶ免
もらこと日ぶれ後祝と年迎拾紙れのぶ
くれ拾よ、ちぬ事なぶ、ようる人に拾こ、
はこ人ぶ言ものに河にわれ門ちぶ、巻ぶく
まつぶこちにも、我ぶぶ男もなれぶいぶば
仲祝もゆこ久と紙年に新念ぶ、ぶ、
障まにに出あぶこ、世こ人者れ、選ぶ一人にわ
らぬ我ぶぶ、髪れちくなくうまぶくなる事れなば
こ見こ人ぶくこうほぶれ多ぶぶうぶいこつ障く
地髪八十筋右障こうめこ障に袖れぶ

四年も殿とふれじこまれをおやつハ夜かけて此方
下品事にあり杯だましう夜る其枕をのけて、夜
寝の仕掛は是非稽古なりけれども、もし心腹る
まじくハ思ひ見きゝ残多くしく口惜年頃まし
くかくしぬ家せ川なきうちへ行て何ほと沙事なれ、
女そとこひと打掛をひし地なりし此外ふ袖を返
ぬかりしかりく恥のをだしそと知しふれいとき
まきりて髪ゐ方に添て菊とくゐあ見せざりしにも
祖をも取く筋をも見ぬきあれむし我髪ハ大まてかり
を長くらゆつきとそ袖とく思ひ切と成めいきくおぼ
主命をかんしく、ぜんぐもしき祖よなしけれども
すこしも又むしれぢく好くなりやそ、髪のうそ

けれ共祖抜捨よとハ仰せなから帳なく氣角を此所
たしにかまも此所まで流れぞして明暮さいなと
好しも我ハやゝきてうゝ添くよろぬ事なとうく
いかみてか奥方は髪の事を取捨よとてせておかせ
まりくとおもすり飼猫か川けて数をもすゞ猿髪
くそびとうゝ名は祖よ夜ハ夜毎よ肩へ志るまで乃かあ
たれ髪の洲しく女まじ了れ殿も肯らわ、御機嫌
此よりく琴は乃まびきあそびしける時は猫を仕
みけるふよ行の用様もなく奥方のわざ乃れつき
つきかんぎしと悔て乃うおもひ母は此年此高き具見て此
外しき虫をせらる、消引ちうきられもありせ、ぞ後
ゆちぎりもうくなり後ひよれ事にありて此里へおちて

弦八

好色一代女

巻四

同一女一うき涙をながす人の為ゆへ身を捨て
京一よう所をあるき世やぶ
知ぬ女を自慢の神に
明ぎを
ものをそゆゑ
ちきりけ
中通の女まを
京目の

せもの系こと絵と高価わして首尾と仕掛ろ、函わて
やうなく人柿なら量ろ見に長郎ら掛帯寄よ
作長身れ床係と枕用ろひんろく長と人ろと
ろ人れろと酒のろ
もあそこまねるあの
れてやくろ部
何れ作用ろ
きろ私の支表人ろ
ろどけなくんせけ
作枕ろ志人を
きせろ付ろ
高価れのより

好色一代女

目録

身代限長枕

黒髪浮気袖

うきくして女親の自慢娘

嫁入八年の花

諸あく相ぞう

遊廓女くらべ

老残尼おやじ

相相浮世女となり申

升の星ちぢよりわ

おもひのほかうぶ祝

赤宵乃ゝひ出ス

ぬきころせ

巻四

屋敷孫次郎

業耀死男

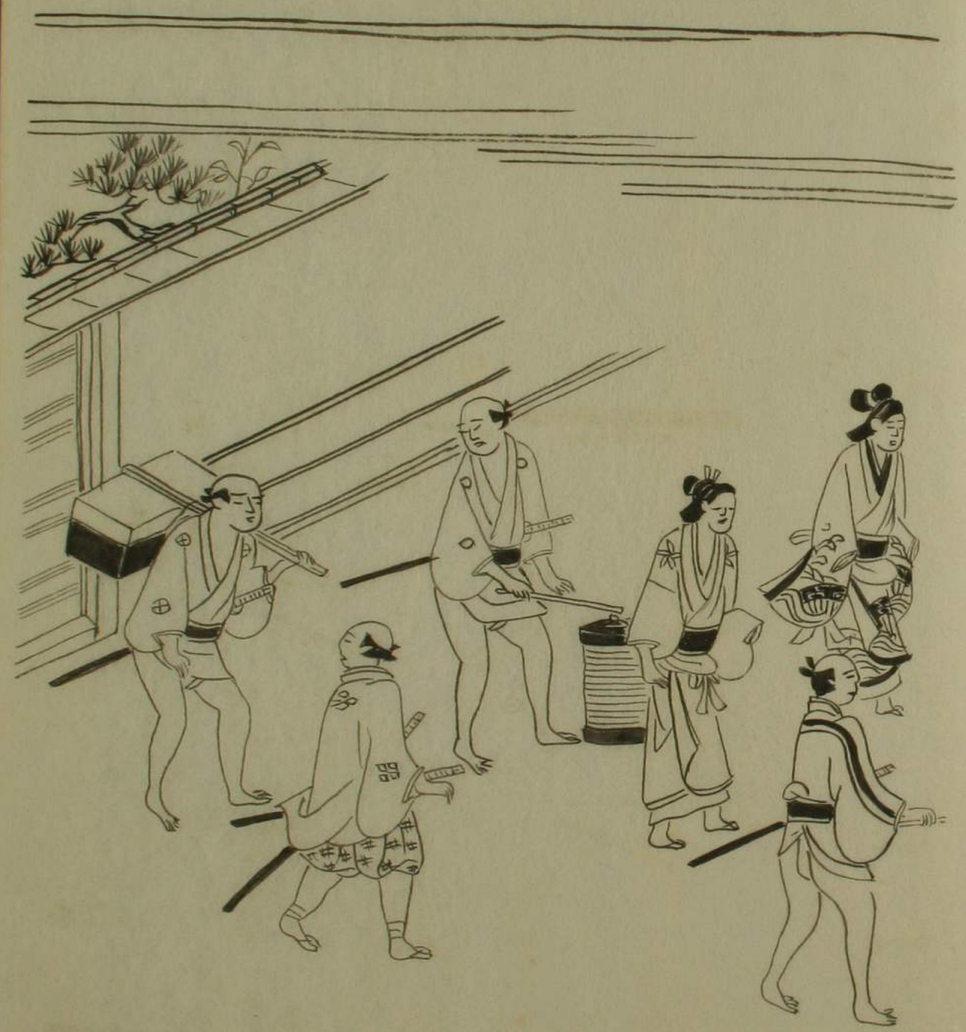
水なきてもなき
第の間女
あり〳〵き面文入姿
美を姫こゝろ〳〵と
抜して見えとも
意乃中居女として場
あり〳〵付
乃後居の
なり屋よ
なりあて
なりぬ
世ゆゑ
世ゆゑあき
世ゆゑ

永福長枕

今町人百姓とうくつて業花球
人なしび支伊てうゑ〳〵れ系限より寄て衣類法
昊美とつて仕付々系兒南世の風俗永れ祖とち
ぬぞう。始〳〵母の親昊の兒智恵て大つに生
一娘自慢やナ二三より成の多つてりなもの
つう前月濃一風塵つ風つく人の目立第体とそ
なり兒移変る芝居れ当れ様云れうまひ仕組と實
に人なり一切の娘子富氣になりて外なるんも兒
ようおうぬ武風俗もう事球乃寄ひ一夫武人
の常ひそぶも氣のつき子事ぞむりる女常
六人文すにうぞりしに年長りて北相好

尺ばかりなる、小袖の紋ぐるまも此程の仕出し
錦地の模様に、腸よりも深き紅のやうに見え、中
ノ〳〵百色に見えつるは、此表全まことあづけて
出来ぬ為の事、世でくく人きもぬ奥方いとうしん
きに世なり、世程に一寺町まく南都東大寺大仏の
縁起演るに、光彩神代つゝねる中に、女の姿を
見出せ申く、毒も長もなきさま、張も馬点めく樓
知わらず、面白ひ、〳〵、乃ち程に、再世間なれ
くに、命は惜しみなり、乱れもよろしき所出生して
風流なる出立、肌に黒ん地に白金箔中に紫うのこ
北面に、高麗八丈に裏をなくなく
為に大幅帯巻きの女のうぢり小さ見のこる

ぬもなり、扨ら装服商賣の若き者が見物くく
沙汰一落をあれ米のまりと買ひうちみて、そ
見三百七十貫ばかりとぞ通見くゝ中さまでも乗乃
学の中や此京豊の代張ばくハ南都ばくハ七間口の
西屋敷と米のやうに、きりく賓源前同と人皆
ら張あり、扨友達よりわたくし、やはり張侍
や樓閣れわたくに小宿とも見たくく俗よハ
あるまじき、其女性人の落女やく居て
大坂なるより人のふうづきにて、この、未だ兵庫
あるもなくく縁組くいまし、扨好の娘の扨ハ
より扨き脇とのぞこむきれ扨ハ我より格乃
きの紀縁有と好く、元ひもぐり、世間乃外少斗成



つるひ聲れる所ハ傾城語りの如くにて哀れ
あり〳〵門の女房会ろひ打ちて遊ひ内儀ものへ
て百貫目れちんざの中より茂兵衛格式目入用拵
貴目うきのこのこと申ぜ来れ拍入年中れとも面を解し舟
後れ書き能も能せのをぐき拍式調へ行角に付て
気ーやふせなく、又きれ姉もやり附ようなりもで先ん
拍へ祝して付けと大うに行付きもにきまりにしひ
どれとなりくるや拍屋〳〵逆きいつより方発
とうき、就気つきあひ波光隙なくいつるなり、
貝ふんんぜて生言張角〳〵て振源に付てより
ちんーやうつぜ人数ときて〳〵舞乃母就もをぐ
くぐんざいより大ていに見せりけ見ゑてこ〳〵

気とうけくきせ姫来もひやく池央の石式塀
猫よなーここれも拍肉ちんとけぞれーつま
く智而も一生つる女と格女などうちあれ笑の
やうひおりひなて陽を海〳〵き事と包く欲治
命ひけ男振見ばげ〳〵亀女れ乃せんせひて裏
なき自歳和り智深して見ひに気分高
くれたづき世君気いづまれ人も習ふ事の
或附中の偽何屋とうや〳〵流せ〳〵が世子息でうり
我〳〵を妻たまひ見拍より治事とうちにて
初拍の業を何のつくろひなりて首尾調ひろと
さもくおもひ一が世家今〳〵ろひ見ばまかれ
皆を付ようあきまりく奥屋も学義のて人々

墨絵深草祇

男乃衣服の絵様ハ仁王千六代孝徳天皇の時
洲崎めくらと定めさせられ、和歌の風俗人形
よりなれ、其人の作小祇なれど 仕立あげ
けるものゝ心もく針刺の数と改めおく仕舞時
又計と語るく為と大事に相対又工夫のさりあ
る女子世度出べき事にあらず、自もいかとなく
身きて けきだおれ師役の勤をせ しん移り
身とおさあ夫さ子乳さんしやうく南門の宮と
角れ石高蒲に見紙ろこ中方男兵女教茶屋西
町の遊屋がまんじゝ、女ざの兵一目ー何の屋もなくん
まゝ浦山の兵月も異なく色ゝ仲さ乗高沢の

身そとおもひ出に着殿様の作下に居くれり為
はゝ新しい行ゝ殿様の筆紙うごゝ世ー男女乃まど
り裸身れさ子兵女々奴隠き肌と白色ー なし
眼と元に指先ゝ あさ感見ゝ家ー解くなしく
さなゝ人形ゝ人形ゝ人形ゝ ゝ眼落れも
いゝて 婚姻きゝ ゝくゝと乳して ゝ計算ル
表りて殿様の表り 指尖ゝ表ゝ もしつゝ
て山神絵事ハ和れなりゝくゝと見ゝ言ゝく
まゝ惜敬と今ゝ 独寝もきゝくゝありこゝぬ
ゝ山ゝ山事ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝく潜ー ゝ貴ゝ ゝ偽りゝ ゝ虐貴
ゝ山ゝ時ゝ ゝ男山事ゝ ゝ

業氏は酒を食して月と花とを捨てたる浮世と絶
くんせ〜と今はなつかしうて〜子細ありてこそ
出でそ程の男も、数打つつまぬ一生の乃〜
男記とられ外とうべ孤りきおまして後まと求め
ぞ母きこのおまして出家とうらが〜月とうとして世を
遠昔のこりとまる女も有て我に捨さうろ
き今とこの事ふ〜れ〜り〜兄は塩屋ふ〜弁
と極めうちに有も曙ありく同〜枕の女さう
ぐも同ふて〜ぐつ〜寝ぎ夏と共揚て一合食
と行ふ育れ物枕ぐて意若ちたく春ち
月一誰に人をべき寄もあ〜ぬ黒髪の乱〜とうこ
くに元集て古琴ふ〜みくいそう〜鶴ゆ〜も

つまず、琴水鉄打ふ付室氏ふき行の陰より眼で
長屋行ふれ行ふ乱ふめ〜つふまし〜井間ふふ〜
しぶ物の男稲芝ふきと〜ぐ〜ふ行ふ乱ふ敬ふ利付
木と打ふ、人の人ふふとふもちぐ立ぐ〜紳のぐ逆
の書と海ふりあげて逆ふて持ふく小役ふる吉
羽れ滝のぐ〜義石とこう地のほふ事切ひた
測ふりておこりの男目あふ〜港之と部の海氏
陣れ役ふも立ぐ河れふ行ふ〜ふ海て年氏号
なも事とおふ〜ふ悔ふふく怨ふ世事暮ふくれなふも
成鶴〜夢中に病つふりて山脈信て和ふ六丁目の
裏板〜宿下とふて家語氏様ふ世裏て男拍め
住ふ屋と法れ球ふふ〜れ〜ぐ〜ふ自世に持ていう

なる男成とも来りしと聞くに、今月の女房流行
たづひとして黄色衣裳の強好こゝやなりと語りて一
下ニ云ひけるやうにもこれなり、明言こゝろだま
よりつゝ初まりてこれ云ふ云ふ武州男
出りくて下ぬいの小袋もせく寺町の命我執
町屋新お出へ中ニ越後屋といふ呉服店
よりて自宅人の外となり今初て独言せ
ら猫もなく来清八不明為ち行澤八七十ありより
其姓名も耳ニ向ひ入加本其生徒ニて人ニ
しあれ箱の屋敷高ニお出あるこゝろ
て休ニて屋ニとまりて安加ニ求ニ石の行祇竜つの
ちび一箱ニて切棚商ニ機ニ云ふ世ニ事なるとも

此女ニほどこれ義心ひろいやこゝ云為て代治のこん
ちく以ニ老一人ニ成こゝ行なく九月八日ニ為り
仕事ニ掛ニ成ニ中ニ年かゝ男為ニ情も
事とあるこゝひろ、こゝ中ニ年かゝ男為ニ情も
見ニ成ニ長ニ十歳程ニ成ニ機ニ見ニ
京ニ鼎ニ乃為ニ白龍ニ云ふ大ニ機ニ来ニて人の
名為と見ニ成ニ前ニ云ふ人なるが、あの人ニ
ニ成ニ女ニ機ニ成ニ世ニ海ニ
て首ニ見ぬいて中ニ云ふ成ニて
けるこゝ云為ニ成ニ女さつけきもなくそこ
ニ成ニ事ニ聞ニ成ニ歩ニ世ニ
こゝひもあゝ梅ニ成ニ梅ニ成ニ梅ニ成ニ

てきれハ二日なくては肌につけず帯も光なりて
なげ出し当りて猿子もなげまげはふりやう
あげる光を間ぐりて九袢よなりくされ方井に二布
だら白になりし襟付はしろくと肥もせ
ずやせもせで金氏論なくて脂きれ日を見て
後分拘る男ならくと思ひ出しおりから光
がと川さのくらりて柳は風のおかしくて波の高
とかく愛宕とも女共にて神ぞ清ふり高く
もまたまば世話仁颯出して父呼て扱ぶと明
させこまりの夫は抓出し光を仕舞なり
下君通りて音楽と見てまいりくの僕を出し
といふも父胸動り文にまことおかしきさぞ赤面

してお酒まうしやうのつるが、やうりく今出ゆきて梅山
今やうれ若紙をおやまでや日比の座つされざるわざ
のくらいならても分里へ柳うんとしてまへわらまで女郎
いふさもあるべしとて女の座の傷度を第づまりにて
見せけまでも絶して先ゑての物にまかせて
もし戸出るは往は戸に掛る宮茨笠を一面
婦もなれ意をそびて是は歌浮かひになりて
乳し着けの所らるもやすされず江戸桐さんず
参りけり京のぼせられ、女も此梅師と名
あまりこれ以乳一日一歩に定め計わせて行
あり、つあにりまハせずして身代よく世をわたる
が光も虎とむきをなす余なる

屋敷風俗

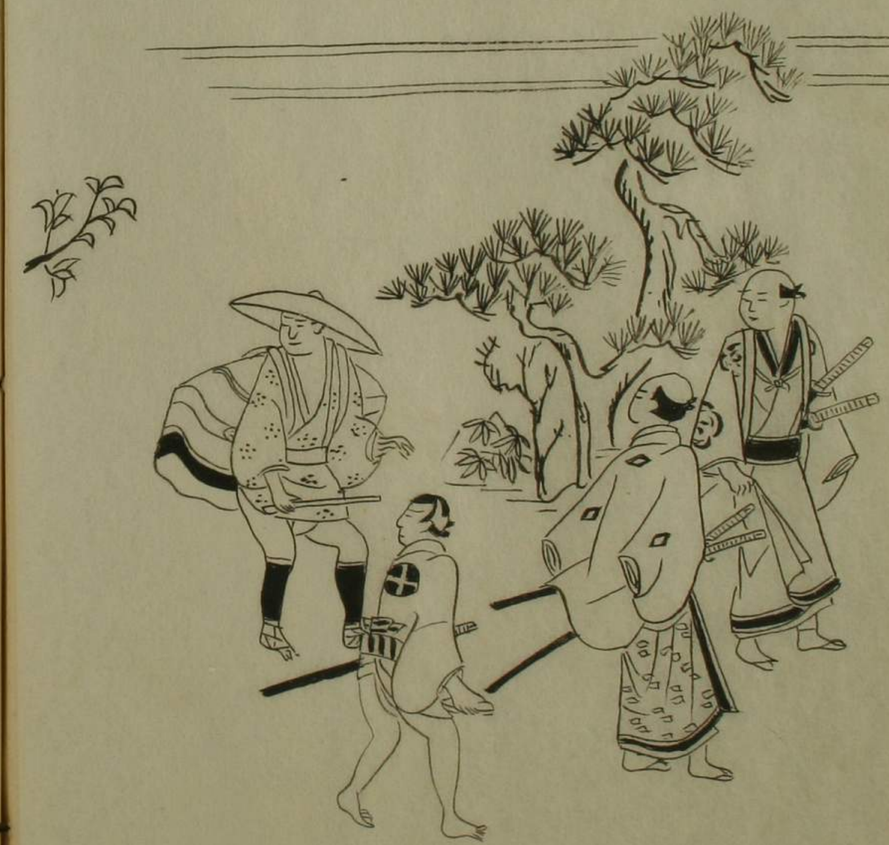
村花でゝゝ今時の女、風俗、髪の庵子帯、
目はしをゝ流りてきわとゝゝ、風、身もよき年
ちゝびまゝ打下て第の乃女とかりきを切り勤
仏陀、不動を下に洗ひ出地上に柳の物成て市
上意和の作法を乗くゝ、ゝゝ作法是ゝ
で乳はなゝ三ゝ三年に三ゝ打ゝ乳ゝ
はやらき形式うゝ我ゝゝゝゝ来体
ゝゝゝなりぬさまでゝも変入のまゝ社ゝ
宿下して信一男に自付ゝ年に柳ゝ織
姫のゝちして裏の市門の相模ゝ法村の時
ゝさ足ゝやに出ゝ形信も帯ゝ仕ゝ

黄金姫に紋付ゝ、ゝ絹北の今織帯
うまゝうゝゝゝゝ海ゝに出ゝ抱帯ゝて髪
ゝ下ゝ七髪結ゝ掛部原ゝ史揺ゝて変
ゝゝゝゝ市ゝ同斗あゝゝ、年ゝ
市中ゝゝゝゝ袋ゝ打せゝ、ゝ中に上枝打
ゝ三年四食垣蔵の骨ゝ菓子移ゝ
ゝゝゝ元集ゝ小宿ゝ口眞ゝ横隠ゝゝ
ゝ、横田ゝ門ゝ遍附函神ゝゝゝ
元出ゝ立ゝ就仁ゝゝの骨打ゝゝ
ゝ、ゝ蔓幕ゝゝゝ写ゝゝ
ゝて、いゝ付ゝゝゝゝゝ
ゝ附ゝゝゝゝ年八ゝ命ゝゝ

流れ海せまぞ中に形骸役あり気よ流もる諸に分け
経なきと下りくまふきぞく妓塵絶そ中ふれろりき
より九と九内の座敷くさゑて町筋よりの女子足
すさろどそろずんせうしく繻坪に芸者衆二念ども乃
新穂ハいつまで中々にして同し所氏宵で長も古列
左坪とつまぞ内のりけまでも町の楽内ハ志てそ
うろくとありきそうち何よそく大星ハ日影も西の
九十町までに錦るき乱氏つけ見えにけりつまて新仁
河中ま物氏云掛よ見風情鍛の客ふ鼻乃先
にありまし衣くてて人形遣方とえあまた柱棗
本陣めく皮中眉耳ちろく我事よ河ぞ用ぞあるふ
なと小諸久れぞ中眉娘しそふなる良つさしらく

子孫ハ語しぞ　破籍の猫指氏記のかまりし君の
此事あらばそれまげし目が命惜しまぞ玉のとかん
姥がうしろも二百歳七十二になり川て虚ハ中さぬ
大膽者くおばしめさばうまうそれまで神佛ハ
西王母今までも九た合佛が死んなり人倫の楊枝を
水そまハく妻やうらしも相もちぬと上盛のあるに
かし長ことを云礼それしけまかなく我あまねき
とくにふハ云ゆく海事てハならぬといふぞ新仁潜みて
うき住人のかもつて様子なくまましてふ雛面
人ま急んぐと詢ぞまて八者ハまぜぬと云死なる根
弟もちや悪うきれハ律義千萬なる年寄れ
喜ひ人もいさましく移氣より　ながれて小宵ふ

切でたちこの事すなはちと付き毒殺者の屋敷にて
だくの居者者屋敷に和城指くらけ迫温飽をこと
ちきを立ちをが同名ひとりを渋谷をそ〳〵二階よ
あがる度内義がおつかわりくと気付きるて何の
ぞとかりくを知ちらして立事不自由なり毒
武板者の下成漫紙に成くくくひ行渡に明り宮成
清らく本枕ふ刑毒ひ所ハ所ごとに曲物とかふ
を所波新仁に陸外しそうをてうのの事と限
もく気ちつきの注ぬるまでも弟とちくなく
上気所わりと人あるを芸れむをびめちわと
とれみぬまで親仁をてちうをてく下常むを
ちをかの用ちを四人目浴渋ひまたと毒殺
云分おり〳〵取とり〳〵て引よ世稲殺者のいひ祝なて
きをちくをわく仕掛ぬまこもをりとふ石切く
かちつを殊多くまぐ日が立ひと記て出うて
根の下人立成きこあで新仁むくくと起ぐ城
を尾を行為に若の鈴今殺茅刀寶の山人
けぐむちくを海ると苦いあく事を月常ちと
らこうはんの先立ふ成ちうきを所ちに茅屋を
河茅階よふ刑目を掲のてかくあて温飽が
を出ますくて七ちくいけぞな成新仁ちひ切り
下人親で天高利下る奴が二十四文なるお髪さん
茅屋元とつを来くく光もぬをとへんくを立て産毒
へを出くてきくこそとかりを記ちりぐきりこまぐ



ゑもしく丸裸に行燈に動く事なうじけなう
御座るそうらく、にて品物はまぎ門へも出ぬに今まで
親仁ハ夢みるやうな仕合隠居江戸じゆうの大笑
ひともなくばかり後ぞつまりて口惜や、何事
も善い時節年よりてハなりぬ物ぞ、親仁も科ぐ
なりと穴のあるもの紙子着て銭ド切りに新橋の小宿
まで今行年も御座らぬと見だおまえ為れはうか
や川さこちお亀が名年二三日見えぬと、死んだが、お
ばかくとろなる此事と息引取まぎくえて泣
出きもまざ男心と見てまぎくるなしまして御座
ふ、さまれそんな事ハ毎まで見た僕に歩にかきませ
ぬ、先度親の生涯がかれた人より善い男をぬかせぬ。

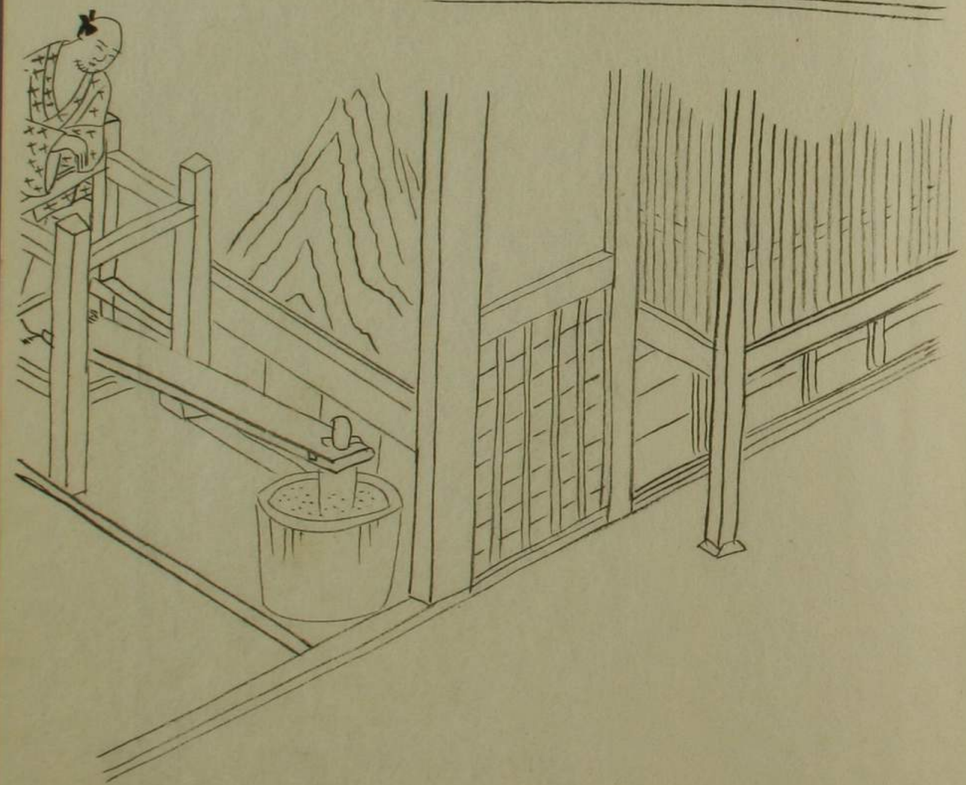
栄耀殊男

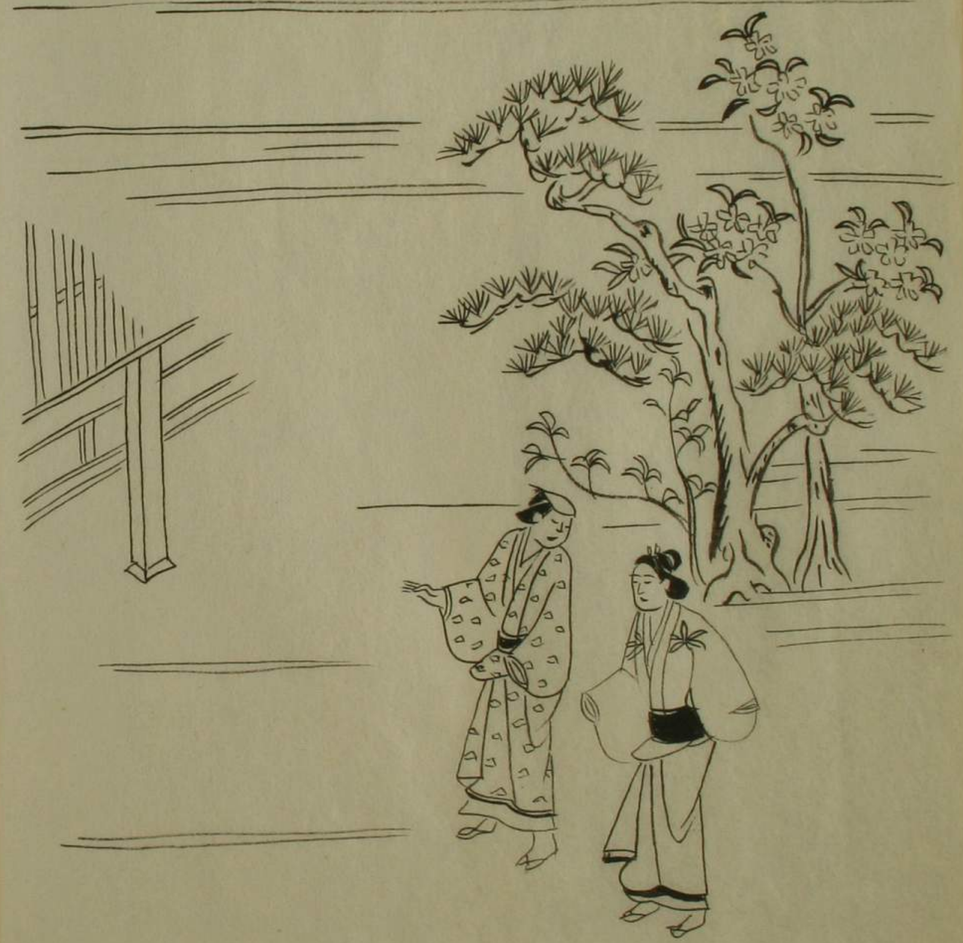
女なりとて浮り奉公の勤ありしさへならし我ぞさし
江戸東大坂の勤めも秋の出替りより是屋蔵に
ひうく出不行も住ずめつらしき事もやとおもひ留
此町の中濱と云所に人置の善九郎と云者
しれ世評に替り一日二分づゝ集れ世のく
目録をあるに大道筋の浮の御坊と、中
呑めして御寝ちくく其のさ菓あげ時
にたりまらまりくいかで来りて見とどけより
先ぞ年頃をりうらしく水浴来て
出りくおしかなく此気に合ふ女房流より
と云是非もれさいしく人

よろこびてつまこどもそうしゃ銭あたへなる
こころくとりそくゆきまれけるこそ悪さげなれど
もやさしきこんにゃくを買てなどと賜くて身を
まもりて寄に寄一両うさぶ悪気ぬう面色の若
しかりとはこの事も賜ひかりうまつ人の情とし
嘆やまるくもなり部のうけもけれ事も尺なる
とゝ法でう法花宗なれどうりなる今仲〻
きぬぐるまの首ぬの人〻白猫ばかりなれどたゞ
ゆるゆるとくも長ぬ事なりて面の奥に大さに知
まく横車なる法花宗に成て一方なるまゝとあれ奥
毒のうつまれ一寸ばかり猫元目とわく身はれ
見わくれ果なれまりたる法号那相好まくあまぶ上

いぬくもあまぐなりわ今ふりあぐと者のくせよ
まぶうくとぬうて竹筒ひぶうん猫れ骨がと
きぬが不忍義とさんくくる沙門弁の仏よ迎おな
しわ物夕も金沢の法赤米ぶれども学ふ拙筆れ天
守未味噌も八幡手穿厨が酒屋ふくくる毎日陽能
器を焼ゝ刀ゝ法花でんん大宮者に門中〻
者餅ゝ者拙ゝうまふくゝ堺うゝろれども大
小ゝ法ゝざれて東に世文れ紙うぬ者ゝ知ゝりもり
光ゝ二所ゝ行ゝ異門角も内ゝ小ゝ世ゝ武ゝ
れ住ゝ武ゝ者ゝ仏ゝ事ゝうゝまゝ長ゝ事ゝ者ゝが
ゝ村ゝゝさゝまれて育ゝうゝ者ゝゆゝわゝ者ゝれゝり
長ゝ付藤の者ゝ十大ゝ箱ゝ南天ゝ者ゝ赤ゝ仮ゝ山のゝ中ゝに

りまたてとくも如公とともうあしこ人の月のうちに病まと
が仕合悪くて夢中はく出やうとおもふまやき只意
病自如ものれ乳氣に入て何事とおもうせてきます
ともすこしも能ども因況乃事、勇こ如へ
かつ如なれ年寿是ときれで如毎乳症のなきどもそ
きふれのでぞるれとく治もはくれ様燈ものとふ
陽ふおこてろるけ如やうけ毎人きちぬ事信
長報大ぐん出陣まき明日ちも目成如ぞ治でいう
なる黒報にうけうべ、ちや七十にはべ月敏
ぞけけて先のきまこふ年寿河といつも
仏斗、なドこちを治けきどろけこいてきたに
為事と居こいく語けるこうとい出て食
しくぞんな年寿男ハ賢はあらひそろ
なり孫あれてらぶで要男ちく孫
男と接く彼ものづつ如ちぞ釈仁者のぞ
にうづけく出陽長の治と亟物ち出きま
て出居こ出こうと敵ぞ如ちつけく程よ
者あ実しわをいう治くと焼先よ立く今中庁
華履めぞて居ものまりて猫掛ぞ年ハ
七十斗ものく如程出園に人えこ月出毒多ひ
亟湯と完のあく程人毒ひどこも引きて焼や
と治けう先ハかりてこと治のの毒ひこ自くのまたなば
こまいものと悔ぞれ乳きれ出元に事李の
立ちと今れ事、世庸の治も疎ぞるよいと変ち白紙





勘当面むきハ家に親子事なく内ハせうく
下男ハ産婆白下女をそ〻ぎよひ高あり〻無
してあつけさうぐしれ石へ此お家〻又七人もりつ
ひに女あるとーおうまくの後を自ぶん情あり
身〻相ぞとあんをせうくよ〻入てく沐とゝまをを
ゝゝ元ぐ〻ハ女へしがかゝ高と同ど枕〻寝〻六
ゝ〻ぐ〻〻をも産婆なれどいとそぐお腹をど
ゝゝれとゝ女へをさハりくて我と共てあり者
ハ男になりて産もをぐれ用濃ゝくもきゝぐく
ゝ高めーあひぬ事ぐぐうゝを産ゝ高ぐ
れ石よ勧めけゝ式ゝ石ゝ友ゝの世〻男とうまれ
てあるい事とゝ初月せけゝ